Bコース ～恵心僧都源信から鋳物師の里～

移動距離 約4.5km

近鉄五位堂駅 ▶ 約0.7km 10分 ▶ ①宝樹寺 ▶ 約0.1km 2分 ▶ ②十二社神社 ▶ 約1.0km 15分 ▶ ③阿弥陀橋石棺 ▶ 約0.7km 10分 ▶ ④阿日寺 ▶ 約0.4km 5分 ▶ ⑤狐井城山古墳 ▶ 約0.2km 3分 ▶ ⑥杵築神社 ▶ 約0.1km 2分 ▶ ⑦福応寺 ▶ 約1.2km 16分 ▶ ⑧鹿島神社 ▶ 約0.1km 2分 ▶ 近鉄下田駅

①宝樹寺の本尊

市指定文化財

明治24年（1891）に作成された『寺院明細帳』によると、宝樹寺の建立は天平宝字8年（764）に鑑真の招請に尽くした大安寺の僧普照国師とされています。本尊の木造阿弥陀如来坐像（市指定文化財）は平安時代後期、脇侍立像（市指定文化財）は平安時代末頃の様式を伝える市内最古の阿弥陀三尊像です。

②十二社神社の奉納品

市指定文化財

下田や五位堂の地域は、中世から江戸時代にかけて鋳物産業が栄えた地として知られています。境内には、燈籠4基（市指定文化財）や全国的にも珍しい鋳鉄鳥居1基（市指定文化財）が鋳物師から奉納されています。鋳物師の主な製品は、鍋や鍬、梵鐘などで、これらの製品は戦時中の供出によって少なくなっており、現存する製品は、かつて栄えた鋳物産業を知る上で貴重な資料となっています。

③阿弥陀橋の石棺

市指定文化財

初田川にかかる小さな橋（阿弥陀橋）のたもとには、石棺材など（市指定文化財）があります。兵庫県の竜山石とよばれる凝灰岩でつくられ、本来は古墳におさめられていた長持形石棺の蓋石と石室の天井石と推測されています。幼年期の源信が自ら阿弥陀の像を刻み、橋の下に流して魚類を救済したという伝承から阿弥陀橋の名があります。

④阿日寺の本尊と客仏

国指定重要文化財

良福寺は平安時代中期の高僧恵心僧都源信（942～1017）が誕生した地とされ、阿日寺は、そのゆかりの寺院として伝えられています。毎年7月10日には恵心忌という法要が営まれ、無病長寿、安楽往生の「ぽっくりさん」としても広く親しまれています。寺宝には絹本著色阿弥陀聖衆来迎図（国指定重要文化財）がありますが、現在は奈良国立博物館に保管されています。客仏には近くの常盤寺（廃寺）本尊であった平安時代中期の木造大日如来坐像（国指定重要文化財）が祀られています。

⑤狐井城山古墳

市指定文化財

全長約140mの市内最大の前方後円墳です。古墳の周囲を巡る濠や堤の発掘調査から、5世紀末から6世紀初頭につくられたと考えられています。付近の水路から、竜山石製の家形石棺や長持形石棺の蓋石（市指定文化財）がみつかっています。このうち長持形石棺は、本来は狐井城山古墳におさめられていた可能性があります。これらの石棺は、ふたかみ文化センター（二上山博物館）前庭に移設して展示しています。

⑥杵築神社の力石

狐井の集落には、戦前、村の若者が力試しに用いたという「かたげ石（力石）」が残されています。力石は、米俵より重いことが多く、杵築神社の力石も米俵の倍以上の重さがあります。当時は、鍛錬と娯楽をかねて盛んに行われていたようです。

⑦福応寺の「板仏」

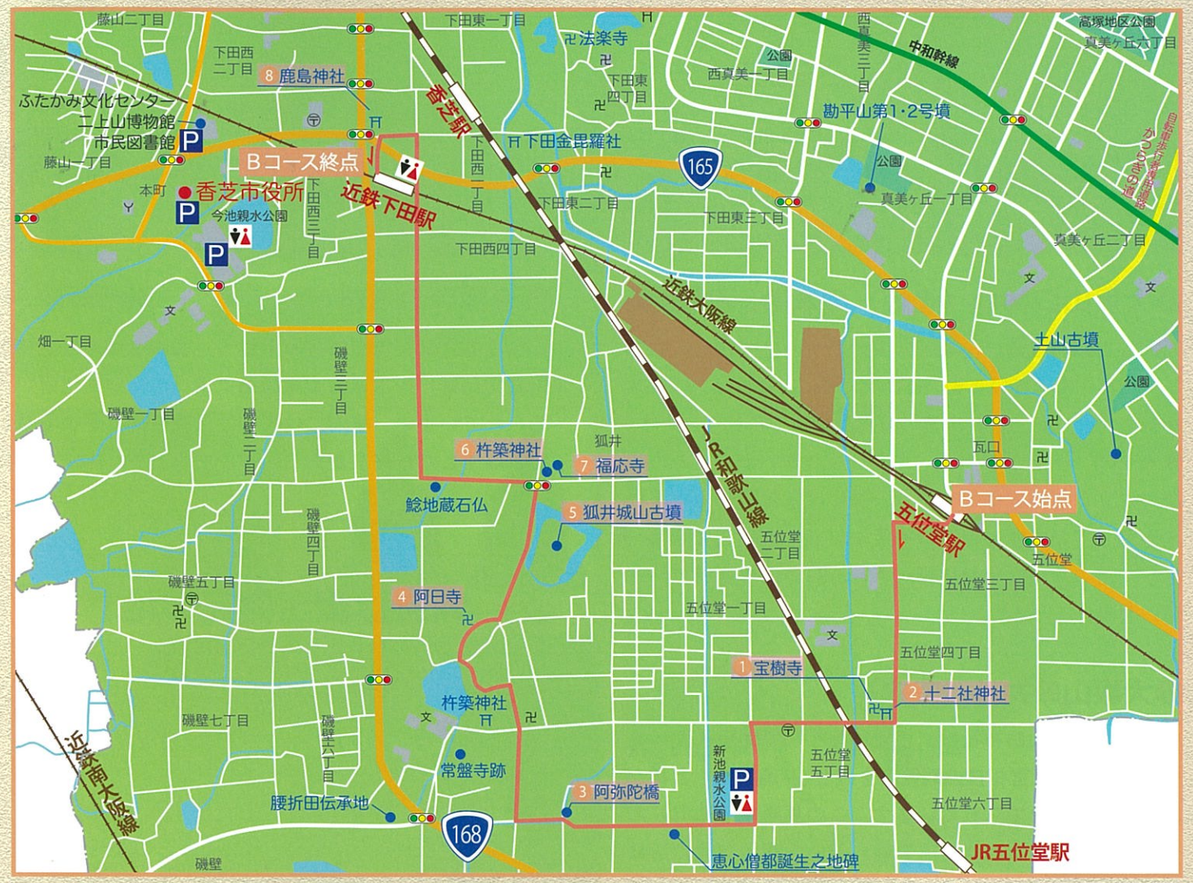
市指定文化財

本尊は板地紙貼彩色の阿弥陀三尊来迎図（市指定文化財）で、通称「板仏」と呼ばれています。画面は、板に薄い紙を貼り合せ、その上に彩色したもので、室町時代から江戸時代の作品と推測されています。恵心僧都源信作との伝聞が、明治時代の『寺院明細帳』に記してあります。秘仏ですが、毎年特別に源信が筆をとったとされる7月9日のみ公開されています。

⑧鹿島神社の渡御行事

市指定天然記念物

鹿島神社では、毎年1月26日に結鎮座と呼ばれる氏子で組織される集団（宮座）によって、渡御行事（市指定文化財）が行われています。宮座の記録が書かれた『鹿島神社結鎮座文書』（県指定文化財）によると、鎌倉時代初期に始まったことがわかります。現行の行事は規模が縮小されているものの、中世に成立した宮座の祭礼行事の様相を残しています。境内には、江戸時代中期の石燈籠や北東隅の児童公園入口にはエノキの巨樹（市指定天然記念物）があります。



1 木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍立像

2 鋳鉄鳥居

3 阿弥陀橋の石棺

4 絹本著色阿弥陀聖衆来迎図

木造大日如来坐像

5 狐井城山古墳

6 杵築神社の力石

7 阿弥陀三尊来迎図

8 鹿島神社拝殿